

「環境課にいる私」

和歌山県田辺市環境部環境課保全係主査 山田 浩嗣

田辺市は、和歌山県の海岸線のほぼ中央、紀伊水道に連なる田辺湾に臨むため、黒潮洗う温暖な気候であり、梅の花香る緑豊かな街です。天神崎、奇絶峡などの名勝、梅・みかん・備長炭などの特産品を有しており、かつて熊野信仰盛んな時代には熊野三山に至る入口として栄え、南方熊楠や植芝盛平を輩出した歴史ある街でもあります。

この美しい故郷の田辺市役所に、環境部が新設されました。平成14年7月の事です。勤務4年目の私は、これに伴う人事異動により環境課保全係へと配属されました。分掌事務は市営の斎場・墓地の管理、ボランティア清掃の支援、市内河川・排水路等の水質調査・保全、ごみの不法投棄対応を含めた公害苦情対応などが主なところです。

配属以前から公害苦情を担当する部署であるということは知っていたので、当初は緊張しました。初日の朝、環境課に来て初めて対応した電話の相手の声が、すさまじく大きな声であった事が印象に残っています。話の内容を聞いても、はたして自分の所属課で扱っている内容なのかどうかもわからず、要領を得ない対応をしてしまいました。話を聞いている内に電話を転送する必要がある事がわかり、対応を引き継いでホッと一息ついたのですが、しばらくして総務部長に呼び出され、電話対応について

「君はその時、何と答え、どんな口調で話したのか」といった事などを尋ねられました。この時は正直、「大変な部署に配属されたなぁ」と思ったものでした。

環境課配属前は教育委員会の社会教育担当であり、地域の方々と「ありがとう」を言い合いながら人間関係を築いて行く仕事を中心でした。一転、公害苦情というのは、やはり聞いていても楽しいものではなく、配属されてしばらくは毎日仕事に行くのが憂鬱でしたが、幸いにも親切で丁寧な上司や先輩に恵まれ、少しずつ仕事にもなじんでいくことができました。しかし、まだまだ勉強不足な事が多く、毎日あれこれ悩みながら職務に取り組んでいるところです。

田辺市環境課では年間400件程度の公害・生活苦情を受け付けています。典型7公害以外にも、不法投棄、放置車両、隣接する空き地の雑草繁茂、犬猫の苦情、害虫の発生などバラエティに富んだ申し出が日々寄せられます。その多くの場合は、行政が直ちに勧告や処分を行うことに適したものではないため、苦情の処理方法として、近隣への配慮のお願い、相互理解による解決を目指す取り組みを行う事がしばしばです。例えば、特に目立つものとして、ごみの野焼きについての苦情があります。田辺市では土地柄農業者が多く、梅の剪定枝などを焼却

処分している光景をよく見かけます。ところが一方では、畑や山林の宅地造成も進んでおり、梅畑の隣が住宅であったりします。野焼きをすると、すぐに煙が窓から入ります。

「隣地でごみの野焼きをしており、煙に我慢できない」との苦情を受けて現場確認に赴くと、梅畑で、焚き火程度の火により剪定枝が焼却されている状況に出会う事がよくあります。この様な際には、農業者に対しては周辺住民への配慮をお願いし、また苦情申出者に対してはごみの焼却禁止の例外規定について説明し、相互に理解しあえるように努めています。

そういった仕事に取り組み、気がつけば1年半が経過しました。最近感じるのは、よく言われる「住民側に立って考える」のが思った以上に難しいということです。

隣りあった所から起こる公害紛争は多くの場合、苦情を訴えるのも住民であるし、発生させているのも住民です。一方が満足すればよいというものではないと考えます。

こういう事がありました。

小型焼却炉から灰が近所に飛散していると苦情を付近住民から受け、ある事業所を訪れました。事業主に対し、焼却炉の構造が平成14年12月の法改正後の基準に適合していない旨を説明すると、「以前にその話は聞いている、法に適合した新たな炉を新設予定である」との

事でした。これに安心し、苦情申出者にその旨を説明し「では、しばらくの辛抱だ」との了解を得られました。

数ヶ月して、付近住民より同じ事業所に対する苦情が再び寄せられましたが、今度は騒音苦情に変わっていました。「炉の新設後、焼却灰は飛散しなくなったが、付属の送風機がうるさくて生活できない」との内容でした。これを受け再度訪問したところ、事業主は激怒し、反論されました。「行政の指導どおり法に適合した高価な焼却炉を設置したのだ。その焼却炉の送風機に苦情が来るのなら市で何とかしろ」。

私は未熟なので、一方から苦情の相談を受けると、そちらの側に意識が集中してしまいます。上記の例では、焼却灰の飛散を防いでもらう事だけを考えていた結果、騒音苦情の発生を防ぐことができませんでした。事業主の責任であると言えばそれまでですが、こちらに経験と知識があれば違った対応ができたかもしれないと思うと、未だに悔やまれます。

とりとめもなく綴ってきましたが、私はこんな事を考えながら仕事に取り組んでいます。未だに七転び八起き、むしろ七転八倒を繰り返している現状ですが、いつかは、人に自慢できるような、いい仕事をしたいものです。